

IPO銘柄 オービーシステム (5576・スタンダード)

| コード | 投資単位 | 公開株式数 | 仮条件（上限PER） | 主幹事証券 |
|------|------|------------------------------------|-------------------------|----------|
| 5576 | 100株 | 公募：20.00万株 売出：40.00万株（OA9.00万株） | 1,510円～1,710円 (9.5倍) | SMBC日興証券 |



システムインテグレーションサービスを提供

■事業内容

システムインテグレーションサービスを提供。金融事業、産業流通事業、社会公共事業、ITイノベーション事業の4サービスを展開する。金融事業は地銀・都銀、保険、取引所、証券、クレジットなど金融業界向けで、産業流通事業は産業流通、マイコン、医療の各分野向け。社会公共事業は電力ICT、社会インフラなど社会基盤やメディア情報、公共、文教・教育分野向けに、ソフトウェアの設計・開発・保守全般における総合サービス事業を手掛けている。22年4月に追加したITイノベーション事業は地銀・信金、保険、クレジット、産業流通、総合情報サービスの各分野のシステム全体を支えるフロントシステムエンジニアとして、システム全体の見積り、業務支援アプリケーションパッケージの設定、オンプレミスシステムおよびクラウドシステムのインフラ構築、プロジェクトマネジメントのサービス事業を展開している。システムインテグレーションサービス事業の単一セグメント。

■特徴

オービック（4684）向けソフトウェア開発会社として1972年に設立された。その後、日立製作所（6501）の関西進出時にビジネスパートナーとして取引を開始し、40年以上の実績がある。三菱電機ソフトウェアとも30年以上にわたりシステム開発実績を積み重ね、ビジネスパートナーとしての関係を築いている。取引先の大半は日立などの元請Sier（システムインテグレーション展開企業）で、エンドユーザーへは元請Sierを通じてシステムを提供。元請Sierとはシステム開発実績を積み重ねることでビジネスパートナーとしての関係を構築しており、長年の実績とノウハウの共有により、主にアプリケーションおよびミドルウェアの提供を行っている。

アナリストコメント

■定量分析

24年3月期の非連結経常利益は前期比12%増の5億7,900万円を計画する。クラウド、AI、ビッグデータ、DX関連などの育成が進んでおり、収益規模が順調に拡大。人員拡充も進んでいる。

■定性分析

業績は順調に拡大しており、AIやDXなど時流に乗る分野でビジネスを展開するものの、業態自体に特段の新鮮味は乏しい。スタンダード上場案件はグロス上場案件に比べて初値買いが入りにくい傾向にあることも考慮する必要がある。

■需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は12億円程度。テーマ性を考慮すると、十分に吸収可能な規模となっている。ベンチャーキャピタルなどの保有はなく、公開株式以外の株券が市場に流出する可能性は小さい。

（小泉 健太）

■類似企業

| | |
|-----------------------------|-----------------------|
| オービーシステム (5576・スタンダード) | 予想PER 9.5倍 (仮条件上限) |
| オービック(4684・プライム) | 予想PER 38.9倍 |
| 昭和システムエンジニアリング(4752・スタンダード) | 予想PER 8.3倍 |

■引受証券

SMBC日興証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、SBI証券、岩井コスモ証券、マネックス証券、松井証券、あかつき証券

業績・財務指標

| | 売上高 (百万円) | 前年比 (%) | 経常利益 (百万円) | 前年比 (%) | 純利益 (百万円) | 前年比 (%) | EPS (円) | 1株あたり 年間配当金(円) |
|--------------|--------------|------------|---------------|------------|--------------|------------|------------|-------------------|
| 22年3月期(実績) | 5,992 | ▲1.3 | 482 | 19.7 | 338 | 22.7 | 163.0 | 50.00 |
| 23年3月期(実績) | 6,163 | 2.9 | 517 | 7.2 | 497 | 46.9 | 239.5 | 50.00 |
| 24年3月期(会社予想) | 6,503 | 5.5 | 579 | 12.0 | 400 | ▲19.6 | 179.3 | 未定 |

※22年11月に株式分割(1株→20株)を実施。22年3月期のEPSと配当金は遡及修正

| | 発行済み 株式総数(株) | 総資産 (百万円) | 純資産 (百万円) | 資本金 (百万円) | BPS (円) | 自己資本比率 (%) | 自己資本当期 純利益率(%) |
|--------|-----------------|--------------|--------------|--------------|------------|---------------|-------------------|
| 21年3月期 | 111,000 | 4,580 | 3,062 | 74 | 1,474.5 | 66.9 | 9.5 |
| 22年3月期 | 111,000 | 4,837 | 3,371 | 74 | 1,623.2 | 69.7 | 10.5 |

※21年3月期および22年3月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

| | 氏名または名称 | 所有株式数(株) | 所有割合(%) |
|---|----------------|----------|---------|
| 1 | 山田 孝 | 840,000 | 40.44 |
| 2 | (株)オービック | 800,000 | 38.52 |
| 3 | (株)日立ソリューションズ | 120,000 | 5.78 |
| 4 | 山田 慶子 | 100,000 | 4.81 |
| 5 | オービーシステム従業員持株会 | 87,000 | 4.19 |
| 6 | 豊田 利雄 | 40,000 | 1.93 |
| 6 | 小島 一翁 | 40,000 | 1.93 |
| 8 | 峰尾 欽士 | 20,000 | 0.96 |
| 9 | 田中 勝彦 | 10,000 | 0.48 |
| 9 | 陳 夢琳 | 10,000 | 0.48 |

経営陣

| 役職 | 氏名 |
|----------------------|--------|
| 代表取締役社長 | 豊田 利雄 |
| 取締役会長 | 山田 孝 |
| 取締役 営業本部・開発推進本部管掌 | 小島 一翁 |
| 取締役 金融事業本部長 | 杉田 欣哉 |
| 取締役 社会公共事業本部長 | 上村 忠嗣 |
| 取締役 管理本部長 | 杉本 繁治 |
| 取締役 | 白石 徹 |
| 取締役 | 堀野 桂子 |
| 常勤監査役 | 渡辺 天山 |
| 監査役 | 阿南 友則 |
| 監査役 | 佐々木 健次 |

ウェルスアドバイザーIPOレポートの読み方

特徴

ウェルスアドバイザーIPO（※1）レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、ウェルスアドバイザーが位置する中立的な第三者としての立場からIPOに関する情報を提供いたします。ブックビルディング（※2）が始まる前にレポートを提供することにより、IPOへの参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。ウェルスアドバイザーIPOレポートには、企業名・コード・公開株数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間などIPO日程のほか、ウェルスアドバイザーの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

- ※1 IPO (Initial Public Offering) : 新規株式公開。
- ※2 ブックビルディング: 引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げてPERを併記いたします。PERの水準は初値の参考指標として有効です。

本資料のご留意事項

- ・本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。
- ・本資料は、SBI証券が、ウエルスアドバイザー株式会社が信頼できると判断して作成したレポートを有償で提供を受けておりますが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。本資料に掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。
- ・本資料の著作権、知的所有権等一切の権利はウエルスアドバイザー株式会社に帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

手数料およびリスク等について

国内株式取引の手数料

- ・株式取引にあたっては、所定の手数料がかかります（手数料はお客様の取引コース、取引チャネル、取引プランや売買代金等により異なることから記載しておりません）。詳しくは、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は上場有価証券等書面等をご確認ください。

国内株式取引のリスク情報について

- ・国内株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
- ・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
- ・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

留意点

- ・SBI証券が保有する株式等や主幹事担当会社の重要な開示事項（利益相反関係等）についてはSBI証券WEBサイト（http://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop690_kajji.html）をご確認ください。または、カスタマーサービスセンター（0120-104-214（携帯電話・PHSからは03-5562-7530））までお問い合わせください。
- ・取引コースや商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、ウェブサイト、等をよくご確認ください。または最寄の取扱店までお問い合わせください。
- ・最終的な投資判断は目論見書の内容をご確認ください。目論見書はSBI証券のホームページで入手いただけます。

| |
|---|
| 商号等：株式会社SBI証券 金融商品取引業者 登録番号：関東財務局長（金商）第44号 加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 |
|---|